

2025 年 6 月 13 日

各 位

株式会社T & Dホールディングス
代表取締役社長 森 山 昌 彦
(コード番号：8795 東証プライム)

議決権行使助言会社（ISS 社、グラス・ルイス社）のレポートに対する当社の見解について

T & D保険グループの株式会社T & Dホールディングス（以下「当社」）は、2025 年 6 月 26 日に開催予定の第 21 回定時株主総会（以下「本総会」）に上程しております、会社提案である第 2 号議案「監査等委員でない取締役 9 名選任の件」（以下「会社提案」）、及び株主提案である第 3 号議案「取締役（監査等委員である取締役を除く。）2 名選任の件」（以下「本株主提案」）について、議決権行使助言会社である Institutional Shareholder Services Inc.（以下「ISS 社」）及び Glass, Lewis & Co（以下「グラス・ルイス社」）がレポートを発行したことを確認いたしました。

レポートでは、両社とも当社の取組みや成果について概ね評価いただいております、ISS 社では「会社提案の全議案に賛成推奨、株主提案の候補者 2 名とも反対推奨」と、当社取締役会意見をご支持いただけたことに歓迎を表明いたします。

レポートの内容及び当社見解については以下に記載のとおりですが、当社といたしましては、株主提案やISS社、グラス・ルイス社レポートに記載の当社課題を真摯に受け止め、今後とも株主のみなさまとの建設的な対話を重ねるとともに、グループ・ガバナンスの強化によるグループ一体経営のさらなる推進により、中長期的な視点でグループを強靱化することで、持続可能な成長と価値創造に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、本説明資料及び招集ご通知をご参照いただき、会社提案にご賛同を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

- ・当社は、本年 5 月 15 日付「①株主提案に関する書面の受領及び当該株主提案に対する当社取締役会意見に関するお知らせ」及び本年 5 月 20 日（英語版は 22 日）付「②第 21 回定時株主総会招集ご通知」に記載のとおり、取締役会における取締役全員一致の決議により、本株主提案に反対しております。

① https://ssl4.eir-parts.net/doc/TJ8795/ir_material16/250965/00.pdf

② https://ssl4.eir-parts.net/doc/TJ8795/ir_material16/250961/00.pdf

- ・なお、本株主提案の実質株主である Farallon Capital Management, L.L.C.（以下「Farallon」）が、6 月 2 日に本株主提案に関する資料を開示しておりますが、一部、誤解を招く記載がありましたので、当ニュースリリースにて当社からの補足をいたします。あわせてご確認ください。

記

1. ISS 社及び、グラス・ルイス社の賛否推奨

議案	取締役候補者	当社取締役会の意見	ISS 社の賛否推奨	グラス・ルイス社の賛否推奨
第 2 号議案（会社提案） 監査等委員でない 取締役 9 名選任の件	上原 弘久	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	森山 昌彦	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	永井 穂高	賛成	賛成推奨	反対推奨
	二見 陽子	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	渡邊 賢作	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	加藤 正純	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	夫馬 賢治	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	田村 泰朗	賛成	賛成推奨	賛成推奨
	北原 睦朗	賛成	賛成推奨	賛成推奨
第 3 号議案（株主提案） 取締役 2 名（監査等委員である取締役を除く。）選任の件	Ken Mohan (ケン・モハン)	反対	反対推奨	反対推奨
	Ina Kegler (イナ・ケーグラール)	反対	反対推奨	賛成推奨

2. ISS 社のレポートについて

(1) レポートの内容

ISS 社は、会社提案の取締役候補者 9 名に賛成推奨、本株主提案の取締役候補者 2 名に反対推奨をしております（当社取締役会意見と一致）。

レポートでは、同業他社と比較した TSR（株主総利回り）やバリュエーション指標（PBR、PER）の高さ、及び堅調な業績推移などから、現取締役会による経営に関し特段の問題は認められないと結論づけています。

また、株主還元政策についても、来期には 50%以上の増配を予定しているほか、配当性向 60%とする新たな方針を発表したことや自社株式取得の加速など、当社の株主還元政策に問題は見られないとされています。

一方で、取締役会構成の変更を求める Farallon の主張には、十分な説得力がないとされています。

3. グラス・ルイス社のレポートについて

(1) レポートの内容

グラス・ルイス社は、政策保有株式の保有に懸念は示すものの、ROE等の実績を評価し、当社の経営には一定の信託をいただいていると認識しております。その一方で、会社提案の社外取締役候補者には保険業界の経験がないため、本株主提案の候補者2名のうち1名を選任することが株主利益に資すると考えることなどから、Ina Kegler氏（以下「Kegler氏」）に賛成推奨をしています。

なお、当社定款第17条に基づき、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の員数の上限は9名とされているところ、会社提案の取締役候補者のうち、永井 穂高氏（以下「永井氏」）に反対推奨をしています。

(2) 当社の見解

①株主提案候補者であるKegler氏に対する賛成推奨について

Kegler氏については、指名・報酬委員5名全員で対面で面談し、その後指名・報酬委員会、取締役会等で複数回に亘り議論を行った結果、当社の中長期的な企業価値向上に資する役割を担っていただけるとの確証は得られなかったことを踏まえ、取締役会における取締役全員一致の決議により、本株主提案に反対しております。

②会社提案候補者である永井 穂高氏に対する反対推奨について

永井氏については、当社グループ長期ビジョンにおける成長戦略の一つである「グループ資本マネジメントの進化」において、財務戦略担当役員として中心的な役割を果たしてきましたが、仮に永井氏が取締役会から外れることとなった場合、財務戦略と経営戦略の連携、迅速な経営判断、グループ・ガバナンス全体の実効性等に支障が生じることに繋がりがかねません。

取締役会の主な機能（全体戦略策定機能・監督機能・経営管理機能）の観点から、期待する専門性・経験のバランス及び多様性を備えた人材で構成され、着実な成果を実現してきた、永井氏を含めた現任取締役の再任を基本とする、会社提案の取締役候補者こそが、中長期的な企業価値向上に資する最適な構成であると判断しております。

以 上

○補足：6月2日にFarallonが開示した資料について

- ・Farallonが本年6月2日に公開した資料につきまして、一部、誤解を招く記載がありましたので、以下のとおり当社からの補足を記載いたします。

①政策保有株式

Farallonは純投資への振替銘柄も政策保有株式に含めて「“実質”政策保有株式の残高は対純資産比で39%」と指摘していますが、純投資振替銘柄については、発行体と売却合意を取得したうえで、資産運用部門にて制約なしに運用しているものであり、政策保有株式には該当いたしません。

そのため政策保有株式の対純資産比率は、当社が開示しておりますとおり17%となります。

また、政策保有株式及び、純投資振替銘柄に関連する事項は、有価証券報告書において開示し、法令に基づいた適切な処理を実施しております。

この点（政策保有株式の対純資産比率）について、ISS社では、政策保有株式の保有額が純資産の20%以上の場合、経営トップである取締役原則として反対推奨を実施されますが、今回は会社提案の取締役候補者9名全員に賛成推奨をしております。

なお、内外株式を削減していく方針の下、純投資への振替銘柄についても売却を進めております。

②金利リスク削減

Farallonは、当社が金利リスク削減に消極的であると指摘していますが、当社では解約増加やイールドカーブの形状変化によって、オーバーマッチングとならないよう留意をしながら、国内金利リスクの極小化を進めております。

③グループ・ガバナンス

Farallonは、当社社長が太陽・大同の出身者がたすき掛け人事で選定されていると指摘していますが、委員長及び過半数の委員を独立社外取締役とする指名・報酬委員会で、出身会社を問わず複数の候補者の中から協議・審議を重ねたうえで、取締役会において社長を選定しており、たすき掛け人事との指摘には当たりません。

④グループシナジー

Farallonは、当社において太陽生命及び大同生命間、並びに国内生命保険事業と海外クローズドブック事業間での事業シナジーが限定的であると指摘していますが、システムの共同利用・事務の共通化の検討などグループ一体経営に向けて取り組みを深化させていることに加え、グループ国内生保からFortitudeへの出再を通じて、グループ国内生保の資本効率の向上を図る等の事業シナジーを創出しております。

※詳細につきましては、本年5月20日に開示しております以下資料もご参考ください。

- ・株主提案に対する当社の見解および企業価値向上に向けた取り組み

https://ssl4.eir-parts.net/doc/TJ8795/ir_material16/250961/00.pdf

以 上